

「ヒートアイランド対策」  
についての世論調査

報告書

平成 21 年度(2009 年度)  
大阪市



## はじめに

近年、大阪市域では、熱帯夜の日数が増加するなど、ヒートアイランド現象によって夏の暑さが増幅され、市民のみなさまの生活環境が著しく損なわれています。

そのため大阪市では、公園・街路樹の整備、建築物の屋上緑化や壁面の緑化、学校の緑化などのヒートアイランド対策を実施していますが、ヒートアイランド現象の緩和が必ずしも十分に進んでおらず、熱帯夜が年々増加傾向にあります。

一方、市民のみなさまの間では、ご家庭での省エネ行動や緑化など身近な環境への取り組みが広がりつつあり、環境を配慮した経営を行う企業も増えつつあります。

こうした取り組みを通して、市民のみなさまや事業者の方々とともにヒートアイランド現象の緩和をめざすムーブメントを高めていく必要があると考えております。

そこで、市民のみなさまが「ヒートアイランド対策」について、どのような意識やお考えをお持ちになっているかをお聞きし、効果的な施策展開を図っていくうえでの参考とするため、今回の調査を実施いたしました。

この調査結果は、今後の市政運営の貴重な資料として活用させていただきます。

最後になりましたが、調査にご協力いただきました市民のみなさまに、厚くお礼申し上げます。

平成22年1月

大阪市情報公開室長

鍵 田 剛

## 目 次

・ 調査概要.....	1
1. 調査目的 .....	1
2. 調査内容 .....	1
3. 調査設計 .....	1
4. 回収結果 .....	1
5. 報告書を読む際の留意点.....	2
6. 標本構成 .....	4
・ 調査結果.....	6
1. 『ヒートアイランド現象』について .....	6
2. 『家庭での省エネルギー』について .....	14
3. 『打ち水』について.....	22
4. 『ドライ型ミスト散布』について.....	32
5. 『緑のカーテン・カーペット』について.....	42
6. 『緑化補助制度』について.....	56
7. 『風の道』について.....	60
8. 『ヒートアイランド現象の緩和』について .....	68
・ 資料.....	73
1. 統計表.....	73
2. その他意見.....	111
3. 質問書.....	121

# ．調査概要

---

## 1．調査目的

大阪市では、ヒートアイランド対策として身近な取組みである打ち水や緑化などの普及拡大を図るため、「大阪打ち水大作戦」や公共施設における「緑のカーテン・カーペットづくり」などの事業に取り組んでいる。

こうした取組みを通して、市民や事業者とともにヒートアイランド現象の緩和をめざすムーブメントを高めていくため、今回の世論調査により市民の意識を把握し、今後のヒートアイランド対策の効果的な施策展開を図るうえでの参考とする。

## 2．調査内容

- 『ヒートアイランド現象』について
- 『家庭での省エネルギー』について
- 『打ち水』について
- 『ドライ型ミスト散布』について
- 『緑のカーテン・カーペット』について
- 『緑化補助制度』について
- 『風の道』について
- 『ヒートアイランド現象の緩和』について

## 3．調査設計

- (1) 調査対象：大阪市内に居住している外国人登録者を含めた 20 歳以上の大阪市住民
- (2) 標本数：2,500 標本（標本割当計画は次頁のとおり）
- (3) 標本抽出方法：層化無作為抽出
- (4) 調査方法：調査票を送付し、返信用封筒で回収
- (5) 調査期間：平成 21 年 9 月 25 日～11 月 12 日（再協力依頼 2 回）
- (6) 調査実施機関：株式会社 関西総合研究所

## 4．回収結果

- (1) 有効回収標本数（率）：1,591 標本（63.6%）
- (2) 未完了標本数（率）：909 標本（36.4%）

	割当 標本数	到達 標本数	未到達 標本数	有効回収 調査票数	無効 調査票数	割当標本 数に対す る回収率	到達標本 数に対す る回収率
総数	2,500	2,469	31	1,591	32	63.6%	64.4%

【標本割当計画】

行政区	住民基本 台帳人口	外国人 登録者数	合計	構成比 %	割当 標本数	外国籍 住民 構成比%	外国籍 住民 標本数
北 区	98,226	4,263	102,489	3.87%	97	4.16%	4
都島区	98,388	2,650	101,038	3.81%	95	2.62%	2
福島区	63,265	1,241	64,506	2.43%	61	1.92%	1
此花区	65,123	1,534	66,657	2.51%	63	2.30%	1
中央区	71,765	6,933	78,698	2.97%	74	8.81%	7
西 区	75,789	2,917	78,706	2.97%	74	3.71%	3
港 区	83,725	2,521	86,246	3.25%	81	2.92%	2
大正区	70,960	1,401	72,361	2.73%	68	1.94%	1
天王寺区	62,400	3,927	66,327	2.50%	63	5.92%	4
浪速区	50,786	5,397	56,183	2.12%	53	9.61%	5
西淀川区	95,672	3,364	99,036	3.74%	93	3.40%	3
淀川区	164,092	5,376	169,468	6.39%	160	3.17%	5
東淀川区	168,071	5,589	173,660	6.55%	164	3.22%	5
東成区	73,108	7,507	80,615	3.04%	76	9.31%	7
生野区	104,204	30,940	135,144	5.10%	128	22.89%	29
旭 区	91,915	2,008	93,923	3.54%	89	2.14%	2
城東区	163,096	4,885	167,981	6.34%	158	2.91%	5
鶴見区	109,510	1,907	111,417	4.20%	105	1.71%	2
阿倍野区	102,744	2,145	104,889	3.96%	99	2.05%	2
住之江区	126,529	3,048	129,577	4.89%	122	2.35%	3
住吉区	152,350	3,545	155,895	5.88%	147	2.27%	3
東住吉区	130,648	3,094	133,742	5.04%	126	2.31%	3
平野区	197,321	7,546	204,867	7.73%	193	3.68%	7
西成区	110,390	7,190	117,580	4.44%	111	6.11%	7
合計	2,530,077	120,928	2,651,005	100.0%	2,500	4.56%	113

注) 住民基本台帳人口・外国人登録者数は、平成 21 年 7 月末日現在。外国籍住民標本数は、割当標本数の内数である。

## 5. 報告書を読む際の留意点

### (1) 質問文・選択肢等

本文中の質問文及び選択肢などについて、長い文章については簡略化して用いている場合がある。

### (2) 結果数値

数値(%)は、各実数をもとに比率表示し、小数第 2 位を四捨五入している。したがって、内訳の合計が全体の計に一致しないことがある。

また、「合計」は有効回答者数(1,591)であり、「回答総数」は複数回答の場合

の全回答数を指し、「該当者数」は回答者を特定した場合の母数を表している。

### (3) クロス表・グラフ

家族構成別や住宅種類別のクロス表のうち、回答数が10件に満たない「その他」などについては、グラフを省略している。

### (4) 信頼区間

今回の調査は、標本調査であるので、標本による測定値（調査の結果）に基づいて、母集団値を推定できる。信頼度95%における測定値（%）の信頼区間1/2幅（標準誤差）は、次の式で算出される。

$$\text{標準誤差} = 1.96 \times \sqrt{\frac{N - n}{N - 1} \times \frac{P \times (100 - P)}{n}}$$

N：母集団数（本調査では2,651,005）、n：標本数（同1,591）、P：測定値（%）

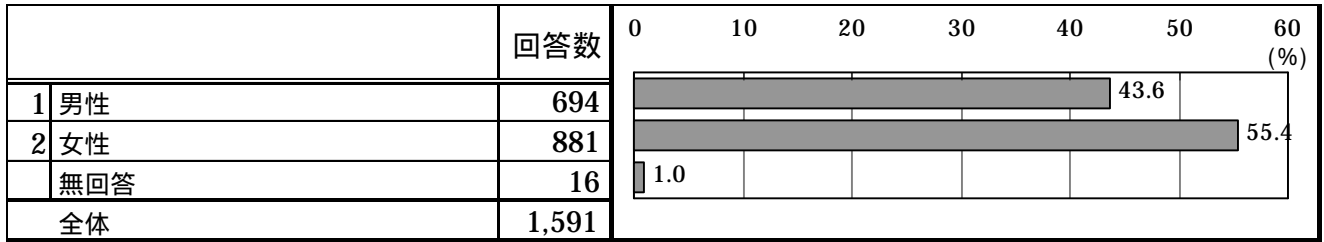
#### 【信頼度95%における主要な%の信頼区間の1/2幅】

	n	P(%)										
		5%	10%	15%	20%	25%	30%	35%	40%	45%	50%	
		95%	90%	85%	80%	75%	70%	65%	60%	55%	50%	
全体	1,591	1.1	1.5	1.8	2.0	2.1	2.3	2.3	2.4	2.4	2.5	
男性	694	1.6	2.2	2.7	3.0	3.2	3.4	3.5	3.6	3.7	3.7	
女性	881	1.4	2.0	2.4	2.6	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.3	
20歳代	149	3.5	4.8	5.7	6.4	7.0	7.4	7.7	7.9	8.0	8.0	
30歳代	258	2.7	3.7	4.4	4.9	5.3	5.6	5.8	6.0	6.1	6.1	
40歳代	275	2.6	3.5	4.2	4.7	5.1	5.4	5.6	5.8	5.9	5.9	
50歳代	244	2.7	3.8	4.5	5.0	5.4	5.7	6.0	6.1	6.2	6.3	
60歳代	317	2.4	3.3	3.9	4.4	4.8	5.0	5.3	5.4	5.5	5.5	
70歳以上	329	2.4	3.2	3.9	4.3	4.7	5.0	5.2	5.3	5.4	5.4	

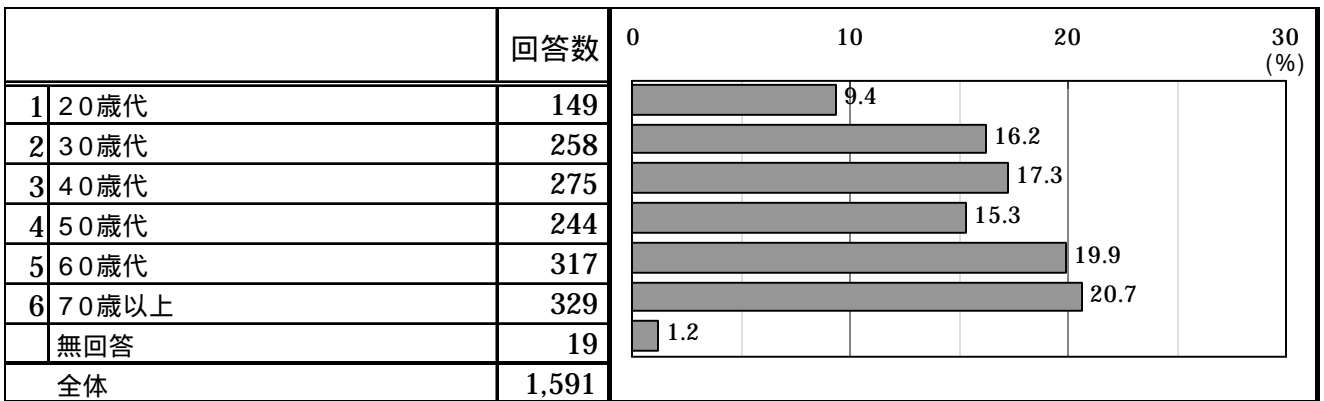
この表は、例えば、問1の『ヒートアイランドの認知度』の結果をみると、「1.言葉も現象も知っていた」は、71.7%であり、“全体”の場合の最も近い値（70%）は「2.3」となっている。すなわち、母集団を対象にこの調査を行えば「1.言葉も現象も知っていた」と回答する方が71.7%の前後2.3%の区間内、すなわち69.4%～74.0%の区間内にあることが95%の確率で期待されることを意味している。

## 6. 標本構成

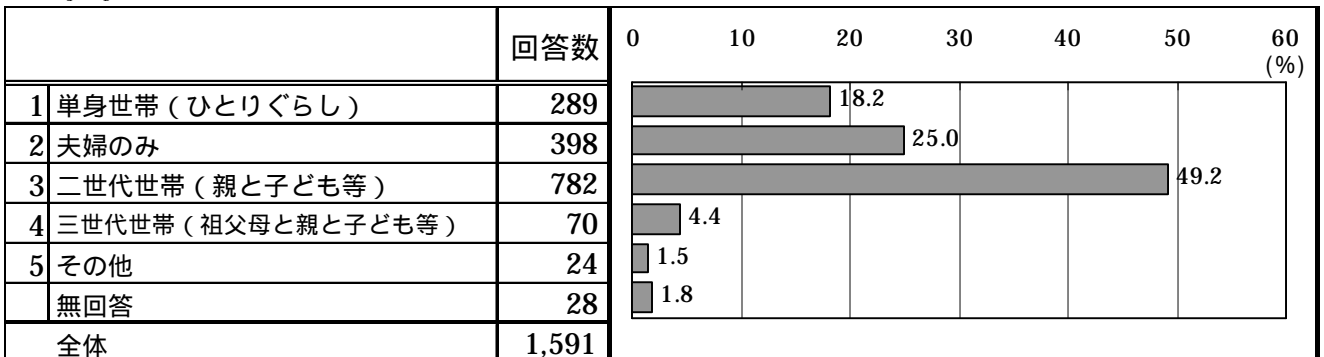
### (1) 性別



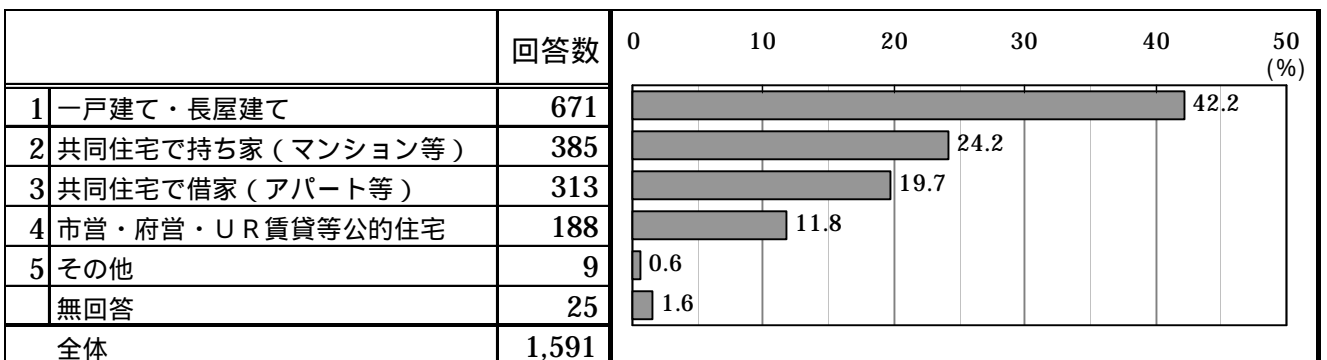
### (2) 年齢



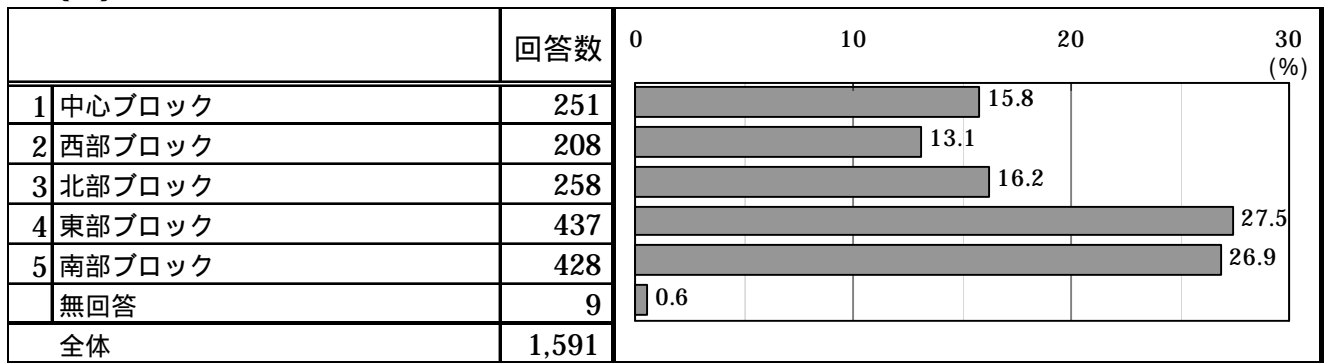
### (3) 家族構成



### (4) 住宅の種類



### (5) 地域ブロック



#### 地域別内訳

中心ブロック(6区): 北区・福島区・中央区・西区・天王寺区・浪速区

西部ブロック(4区): 此花区・港区・大正区・住之江区

北部ブロック(3区): 西淀川区・淀川区・東淀川区

東部ブロック(6区): 都島区・東成区・生野区・旭区・城東区・鶴見区

南部ブロック(5区): 阿倍野区・住吉区・東住吉区・平野区・西成区

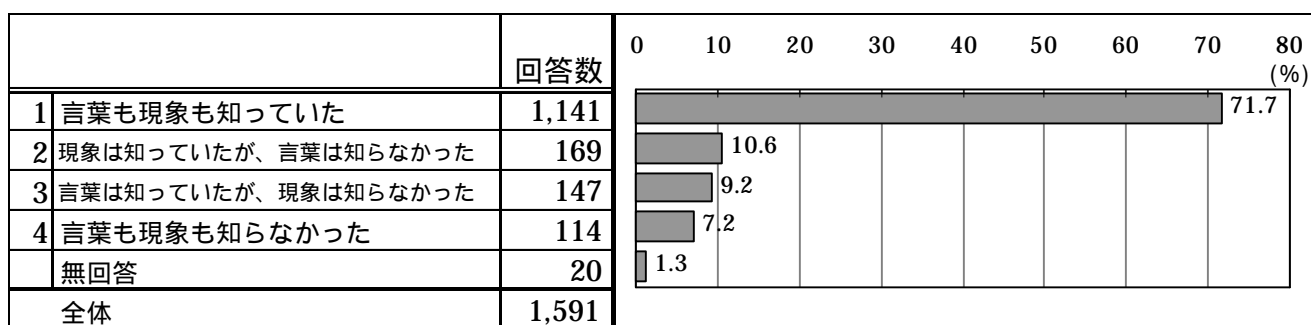
## ．調査結果

### 1. 『ヒートアイランド現象』について

<ヒートアイランド現象の認知度>

**問 1** あなたは、『ヒートアイランド現象』という言葉を決回のアンケートにお答  
えになる前からご存知でしたか。最も近いものを1つお選びください。

1. 言葉も現象も知っていた
2. 現象は知っていたが、言葉は知らなかった
3. 言葉は知っていたが、どのような現象かは知らなかった
4. 言葉も現象も知らなかった



『ヒートアイランド現象』については、「言葉も現象も知っていた」が71.7%と最も多く、次いで「現象は知っていたが、言葉は知らなかった」が10.6%、「言葉は知っているが、現象は知らなかった」が9.2%となっており、認知度が高いことがうかがえる。

男女別にみると、男性の方が「言葉も現象も知っていた」の割合が多くなっている。

年齢別にみると、「言葉も現象も知っていた」は30歳代と40歳代、50歳代が8割を超えており、特に、40歳代は「現象は知っていたが、言葉は知らなかった」を合わせると9割を超えている。一方、70歳以上は「言葉も現象も知っていた」は5割であり、他の年代層に比べて認知度が低くなっている。

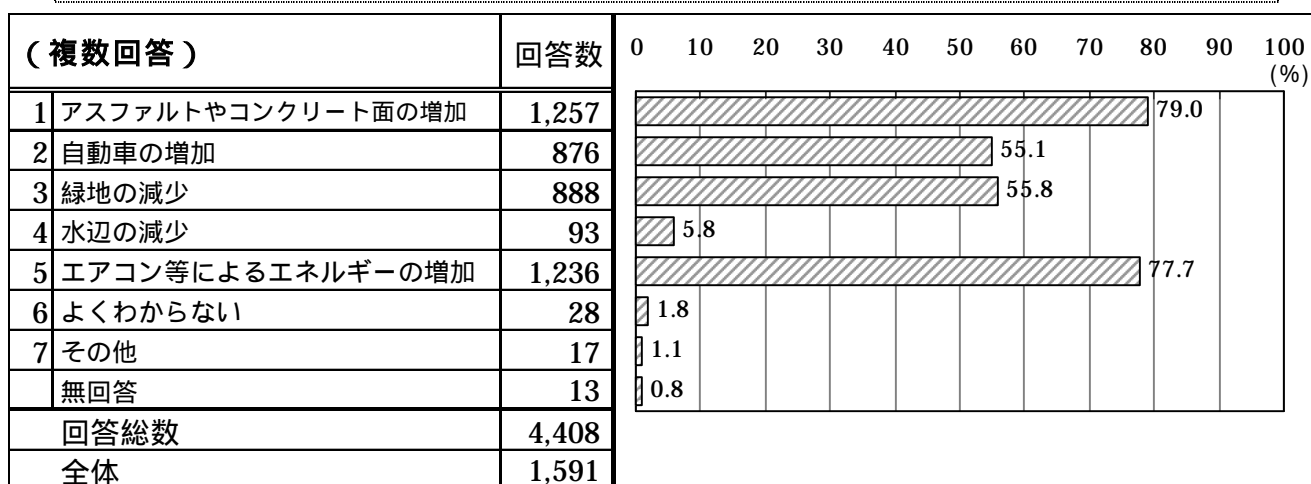
< ヒートアイランド現象の認知度 >



< ヒートアイランド現象の原因として影響が大きいもの >

**問 2** あなたが、『ヒートアイランド現象』の原因として影響が大きいと考えるものは何ですか。あてはまるものを 3つまで お選びください。

1. アスファルトやコンクリート面の増加
2. 自動車の増加
3. 緑地の減少
4. 水辺の減少
5. 住宅やオフィスで使用するエアコン等によるエネルギーの増加
6. よくわからない
7. その他（具体的に： \_\_\_\_\_ ）

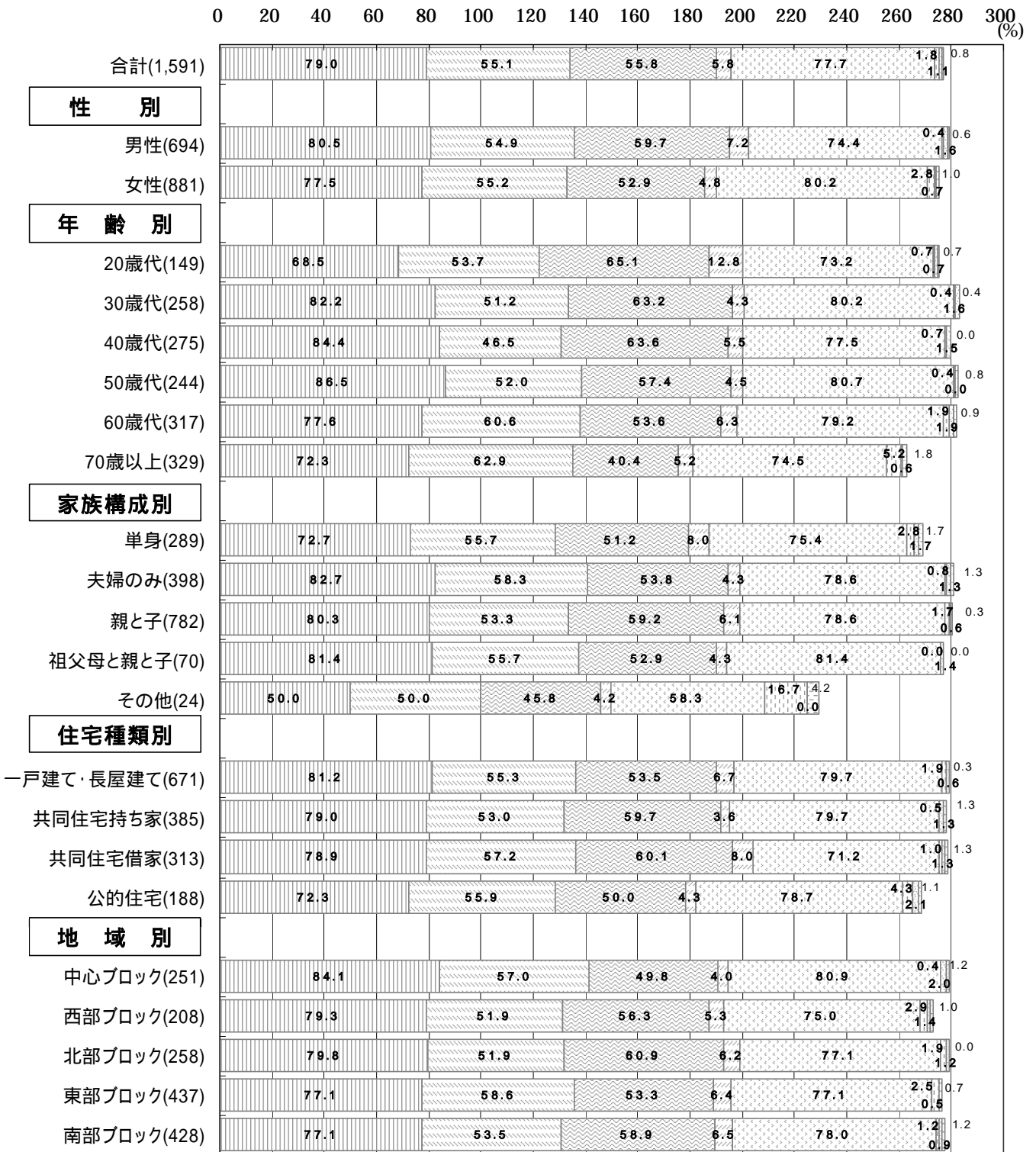


『ヒートアイランド現象』の原因として影響が大きいと考えるもの（複数回答）は、「アスファルトやコンクリート面の増加」が79.0%と最も多く、次いで「住宅やオフィスで使用するエアコン等によるエネルギーの増加」が77.7%、「緑地の減少」が55.8%、「自動車の増加」が55.1%となっている。

男女別にみると、男女とも同じような傾向を示しているが、女性の方が「よくわからない」の割合が多くなっている。

年齢別にみると、20歳代から60歳代は同じような傾向を示しているが、70歳以上は「緑地の減少」が少なくなっている。

< ヒートアイランド現象の原因として影響が大きいもの >

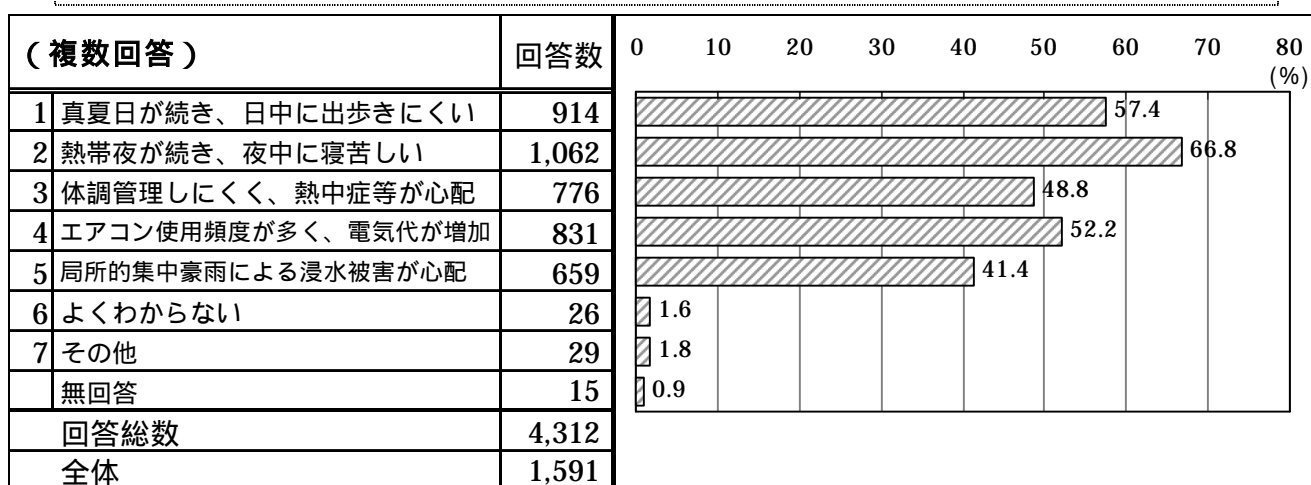


- 1 アスファルトやコンクリート面の増加
- 2 自動車の増加
- 3 緑地の減少
- 4 水辺の減少
- 5 住宅やオフィスで使用するエアコン等によるエネルギーの増加
- 6 よくわからない
- 7 その他
- 無回答

< ヒートアイランド現象で問題と思うこと >

**問 3** 『ヒートアイランド現象』について、あなたが生活していくうえで問題であると考えられることは何ですか。あてはまるものを 3つまで お選びください。

1. 真夏日が続き、日中に出歩きにくい
2. 熱帯夜が続き、夜中に寝苦しい
3. 体調管理しにくく、また熱中症などが心配である
4. エアコンの使用頻度が多くなり、電気代が高くなる
5. 局所的な集中豪雨による浸水被害などが心配である
6. よくわからない
7. その他（具体的に： \_\_\_\_\_ ）

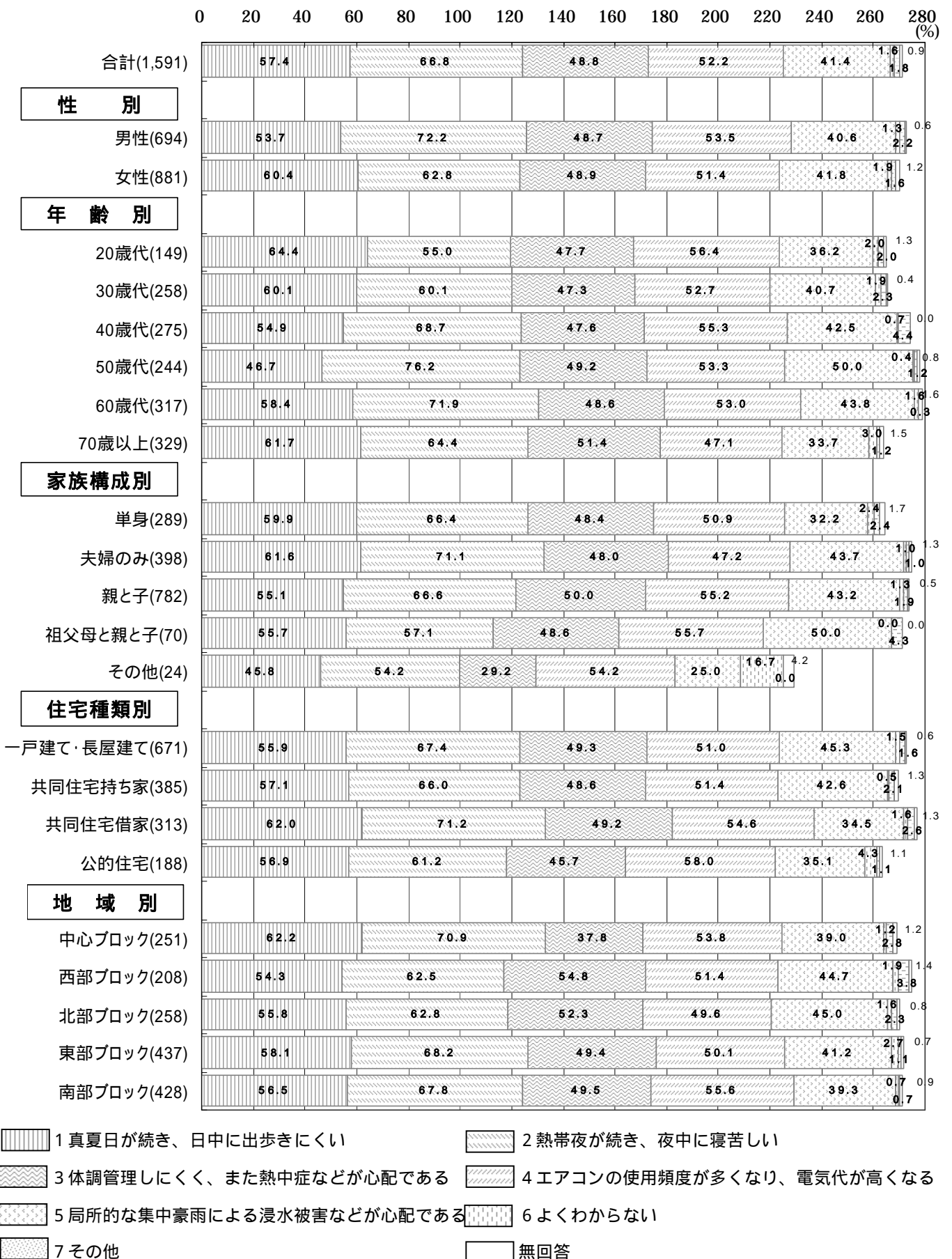


『ヒートアイランド現象』に関して生活していくうえで問題であると考えられること（複数回答）は、「熱帯夜が続き、夜中に寝苦しい」が 66.8%と最も多く、次いで「真夏日が続き、日中に出歩きにくい」が 57.4%、「エアコンの使用頻度が多くなり、電気代が高くなる」が 52.2%、「体調管理しにくく、また熱中症などが心配である」が 48.8%となっている。

男女別にみると、男性は「熱帯夜が続き、夜中に寝苦しい」が最も多く、女性は「真夏日が続き、日中に出歩きにくい」が多くなっている。

年齢別にみると、20歳代は「真夏日が続き、日中に出歩きにくい」が最も多く、40歳代・50歳代・60歳代・70歳以上は「熱帯夜が続き、夜中に寝苦しい」が最も多くなっており、30歳代は同数となっている。

< ヒートアイランド現象で問題と思うこと >

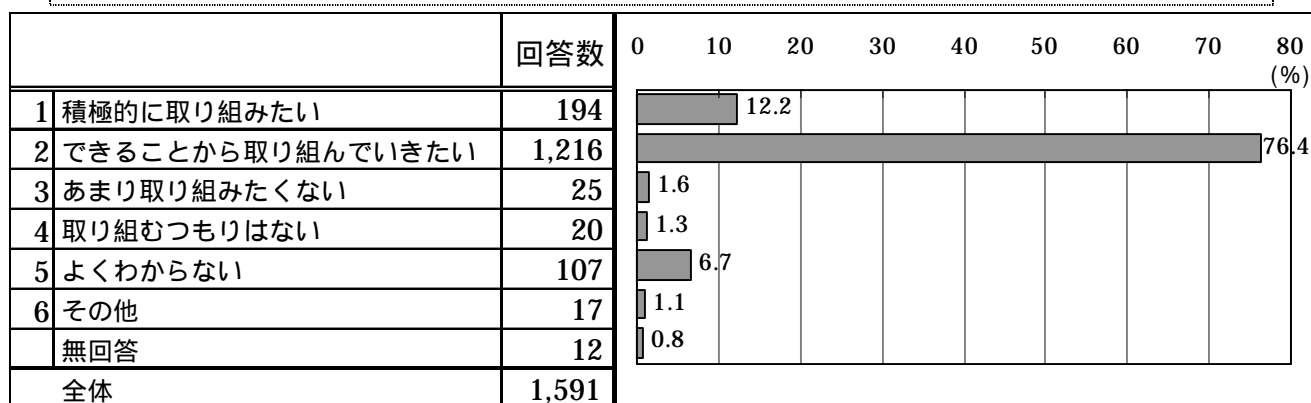


< ヒートアイランド対策の取り組み意向 >

**問 4** 『ヒートアイランド現象』により、真夏日や熱帯夜の増加が引き起こされていますが、1人ひとりのクールビズやマイカーを使わないといったライフスタイルの改善や省エネ行動によって、『ヒートアイランド現象』は緩和することができます。

あなた自身は、『ヒートアイランド対策』については、どのように取り組もうと思いますか。最も近いものを1つお選びください。

1. 積極的に取り組みたい
2. できることから取り組んでいきたい
3. あまり取り組みたくない
4. 取り組むつもりはない
5. よくわからない
6. その他（具体的に： \_\_\_\_\_ ）



『ヒートアイランド対策』への取り組みは、「できることから取り組んでいきたい」が76.4%と最も多く、次いで「積極的に取り組みたい」が12.2%となっている。

男女別にみると、男女とも同じような傾向を示しているが、女性の方が「よくわからない」の割合が多くなっている。

年齢別にみると、全年代層とも同じような傾向を示しているが、70歳以上は「よくわからない」の割合が多くなっている。

< ヒートアイランド対策の取り組み意向 >

